



かみわづ
上宮津

A to Z

はじめに

私たちは、上宮津 21 夢会議、上宮津地域会議を中心に地域振興と地域のお宝発見を目指し様々な活動を続けてきました。より良い魅力を探す活動の中で、参加された来訪者の皆様から地域の日常の素晴らしさと、他にない自然の素晴らしさを教わり、この何気ない日常を地域のお宝として皆さんにお伝えしようと考えました。この冊子を多くの皆さんがご覧になり、少しでも上宮津の魅力に触れていただくことができれば幸いです。



春



サツキ植栽



田植え



上宮津祭り



盆踊り大会

夏



そうめん流し



今福の滝

秋



かみやづ奇席



敬老会



時の響きコンサート

冬



雲海



丹鉄「あおまつ」



新春お楽しみ会

contents

- A Atagojinja
愛宕神社・上宮津祭り
- B Bird
上宮津のシンボル、はばたく森
- C Community
コミュニティ
- D Dream
上宮津 21 夢会議
- E Ekiden
上宮津地区駅伝競走大会
- F Furukoko
古心・薬師さん
- G Gold
金山黄銅鉱坑道跡
- H House
上宮津地区公民館
- I Inishie
古の道
- J Judge
山論記念日
- K Karakawa
辛皮 (ホタルとカジカ夢酔い祭り)
- L Life
生活・営み
- M Mountain
城山
- N Nougyoubunkasai
農業文化祭
- O Ootegawa
大手川
- P Person
多士済々
- Q Question
蛇綱 (蛇を祀るのは?)・
今福の滝 (名瀑の不思議)
- R Rindou
杉山林道・大杉
- S Salon·de·kamiyadu
サロン・ド・カミヤツ
- T Temple
曹洞宗 大圓山 盛林寺
- U Unkai
雲海とカフェ
- V View
美しい里山の風景
- W Work
仕事・生業
- X X
交流
- Y Young
若者
- Z Zentai·Zenkei
全体・全景



A

Atagojinja



B

Bird



C

Community

江戸時代から続く上宮津祭りは4月の第3土・日に行われます。一番の見どころは、日曜朝、小田関ヶ淵の山頂355mに座する村の総鎮守愛宕神社に、各地区の神楽、太刀振り・太鼓、奴計6組の芸能が集結し、神事の後奉納されることです。未明に出発、険しい山道を登り、明け方6時、清冽な空気の中、五穀豊穡を願って厳かな中にも賑やかに執り行われます。

愛宕神社・上宮津祭り

杉山の樹林が織りなす「大鳩」は冬将軍に保護色となる

杉山の中腹に、杉群が鳩の形をしてランドマークのように息づいています。その鳩は「見返り美人」のように振り向いて、天の橋立を眺めています。まわりの木々が、春には早緑色、秋には黄色・紅色になるため、鳩の常緑との対比が見事です。冬には、杉山一帯が雪に覆われ、鳩も雪化粧します。

上宮津のシンボル、はばたく森

指先に神経とがらせワラを編む 棧俵づくりは健康づくり

平成27年3月に閉校となった上宮津小学校の校舎で、地域の仲間達が棧俵を作っています。8月16日の宮津灯籠流し花火大会で棧俵に灯籠を載せて海に流します。このコミュニティ活動は健康づくりにもなりますが、大切な母校の利活用が主な目的です。令和元年には、「学校ミュージアム」が行われました。

コミュニティ



上宮津 21 夢会議は、2002年につくられた「上宮津地区振興計画」を、みんなで力を合わせて実現しようとして翌年3月にボランティア団体として誕生しました。地区内外約100名の会員が「夢とロマンを語りながら人々のふれあいと連携を大切に、自ら楽しむ」を合言葉に様々な活動に取り組み、地域の元気づくりを奮闘しています。

上宮津21夢会議

昭和59年秋、しばらく途絶えていた上宮津縦断駅伝を形を変えて復活したのが始まり。翌年から6月開催になり、現在宮津市内で続けられている唯一の駅伝大会です。近年は正式区間で競う地区内自治会チームは減り、短い距離を老若男女で楽しくつなぐオープン参加が増えています。地区外から参加されるチームもあり、貴重なスポーツ交流イベントになっています。

上宮津地区駅伝競走大会

古き心は良き心
「古心（ふるここ）」美しい響きの地名です。古心には薬師如来が安置されています。そこには耳の形の石も祀られており、耳の病気に効くと言われ、毎年3月7日に信徒が集まり法要を行っています。また1kmほど入った所には、岩から湧き出した水が滝のように流れ落ちる、とても神秘的な空間があります。

古心・薬師さん

ふるここ



Gold



House



Inishie

2016年に上宮津21夢会議が探索し、長らく眠っていた産業遺産ともいふべき金山坑道跡を発見しました。小田金山地区の平野山と蛭子の2か所にあり、どちらも平地から少し入った山の中腹に残っています。明治から大正の頃、黄銅鉱石を採掘し四国の精錬所に運んでいたとのことですが詳細は不明です。

金山黄銅鉱坑道跡

かなやま

昭和33年頃に加悦町から移築された上宮津地区公民館。元々の竣工は戦前と伝えられています。宮津市内の木造公民館としては最大の面積を有します。質の良い木材が用いられ文化的価値も高い建物です。一部が改造され今も上宮津の拠点として現役で使われています。夜の催しで玄関や二階の窓際が提灯で飾られた外観の風情は一見の価値があります。

上宮津地区公民館

丹後から丹波、京への古道なる元普甲道
また今普甲道

元普甲道は奈良時代に、今普甲道は江戸時代に開かれた、丹後宮津から丹波福知山に至る大江山越えの街道です。当時一帯にあった普甲寺の名前がつけられました。今普甲道の新兵衛屋敷跡や付近の石畳の道は、いにしえの趣を残す魅力的な場所です。

いにしえ 古の道



Judge



Karakawa



Life

山論で取り戻し山
守る里

貞享5年(1688)7月
4日、幕府に直訴して
いた隣藩田辺領大股
村(現舞鶴市)との30
年近くに及ぶ山境争
いに裁定が下され上
宮津村が勝訴しまし
た。村は盛林寺に記
念碑を立て山論記念
日を設け、昭和30年
代以降は毎年8月8
日に、先輩の努力と
資金援助を受けた衣
川氏への恩義に報謝
する法要を現在に至
るまで続けています。

山論記念日

辛くないのに、辛皮
センベイ

カンラン岩かいの峽の棚田
や辛皮かいにきゆるきゆる
と鳴く河鹿蛙よ

辛皮地区は元普甲道
の通り道に位置し、
杉山から流れる河川
の源流部にある上宮
津の原風景を思わせ
る地区です。棚田に広
がる稲は、橄欖岩かんらんから
湧く真水をいっぱい
吸って、秋にはおいし
いお米へと育ちます。
辛皮地区では平成16
年から毎年6月に「ホ
タルとカジカ夢酔い
祭り」が開催されます。

辛から皮かわ
(ホタルとカジカ夢酔い祭り)

蕎麦灰コンニャクからなる蒟蒻
作り

さあ勢いよく投げま
しょう 味噌作り

- ①「生命力に溢れた
人尽くしのかみやづ」
明るくて、楽しむこと
が大好きな人が多い
上宮津、懐深く新しい
仲間を受け入れます。
- ②「土に根差した暮ら
しを味わう催し、やっ
ていきます」米、餅、
蕎麦、味噌、蒟蒻。
土と繋がる、季節に
合わせた生活があり
ます。

生活・営み